

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 2 区分
 【発行日】平成 20 年 3 月 6 日 (2008.3.6)

【公表番号】特表 2007-516390 (P2007-516390A)
 【公表日】平成 19 年 6 月 21 日 (2007.6.21)
 【年通号数】公開・登録公報 2007-023
 【出願番号】特願 2006-519999 (P2006-519999)
 【国際特許分類】

F 1 6 D 11/04 (2006.01)

F 1 6 H 1/16 (2006.01)

F 1 6 H 1/20 (2006.01)

【F I】

F 1 6 D 11/04 A

F 1 6 H 1/16 Z

F 1 6 H 1/20

【手続補正書】

【提出日】平成 20 年 1 月 16 日 (2008.1.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 7】

前記動クラッチ部材と前記クラッチオペレータとの共同する円錐状表面は、少なくとも動クラッチ部材の円錐状表面を部分的に覆っているクラッチオペレータの円錐状表面によって構成されており、このため、クラッチ切り離し操作の始めには、十分な接触エリアが存在し、該エリアは、クラッチ部材が手動ドライブ位置に上がるに伴い、線状の接触へと向かい、急速に減少することを特徴とする請求項 6 に記載のモータ付きバルブアクチュエータ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 8】

前記アクチュエータは、前記レバーにより駆動される回転カム部材を有し、該部材は、レバーにより駆動され、また、前記の共同する円錐状表面を介してレバーの移動と動クラッチ部材の間で、機械的な有効性を変化させるために、クラッチオペレータと共同することを特徴とする請求項 6 又は請求項 7 に記載のモータ付きバルブアクチュエータ。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 19

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 19】

前記中間シャフト上のピニオンギア歯を縦方向に延伸したことで、直径方向にはスリム化されることを特徴とする請求項 18 に記載のモータ付きバルブアクチュエータ。